

# インドネシア・ボルネオ島における「開発」圧力に抗する地域住民主体の伝統知に基づく収入創出と環境教育を通じた熱帯林保全及びそれを支える日本でのしくみ構築

活動地域  インドネシア

ひろげる助成

3年目

実践

在来種や果樹の植林面積 **19 ha**

学習会の参加者 **165人**

今年度計画の達成度 **81%**

全体計画の達成度 **88%**



ボルネオ島東カリマンタンの植林地にて

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

ボルネオ島の国立公園内での植林活動が制限されたため、植林地の変更を余儀なくされた。また、アグロフォレストリーを家庭で実践できる環境の整った世帯が少なかった。

### ■工夫した点

国立公園内に代わり、隣接する土地を所有するNGOと連携し植林を行った。同エリアは果樹栽培にも適した土地で、同NGOとは環境教育等の他方面でも協力関係が深まった。

## 課題

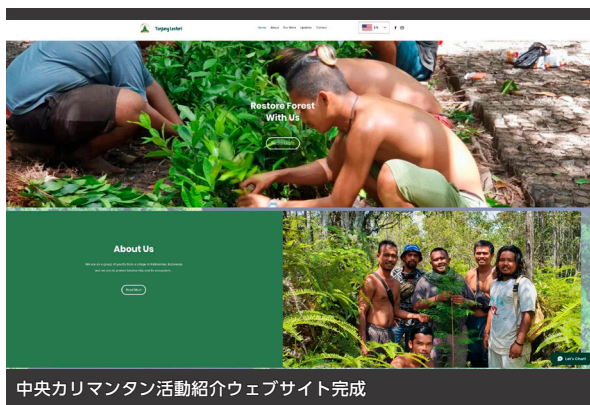
熱帯林破壊や森林火災の多くは、大企業の開発による土地転換によるものであり、開発圧力下にある地域住民の持続可能な収入創出と消費者側の啓発と支援の仕組み構築が必要。

## 目標

アグロフォレストリー・エコツーリズム等大規模開発に代わるオルタナティブな収入創出が地域住民主体で実行されるように促し、当事者として日本から支援する仕組みを作る。

## 活動内容と成果

- 【活動1】中央カリマンタンで①9haに在来種3,600本の植林、②アグロフォレストリー技法を村内3世帯が実施、③熱帯林保全活動紹介ウェブサイト制作
- 【活動2】東カリマンタンで①アグロフォレストリー植林を10ha拡大、②その普及のための村人対象の環境教育を継続
- 【活動3】①学習会を4回開催(参加者165人)、②広報メディア制作検討ワークショップを5回実施、③熱帯写真館サイトを活用した月1回のSNS発信、④ボルネオ島の地域住民を支援する3種類のファンドレイジング・啓発アクションを実施



中央カリマンタン活動紹介ウェブサイト完成

## 全助成期間の活動を振り返って

ボルネオ島では地域住民による在来種の植林やアグロフォレストリー及び環境教育を継続的に実施。アグロフォレストリー技能の向上や、エコツーリズム企画等今後に繋がる動きもつくれた。日本では「熱帯林とつながるアクションを生み出す」パーパスを策定、熱帯写真館やメンバーインタビュー動画を活用し広報の裾野が広がり、クラウドファンディング植林企画、紙芝居作成、生きもの展覧会の開催等で新しい支援者層が増えた。



熱帯林とつながる生きものイラスト展覧会

## 今後の展望

ボルネオ島では、収入創出に向けた若い世代の人材育成と他団体や村政府との協力関係の確立により、今後の活動継続の見通しが立った。他地域への普及も始まっている。日本側では「ジャングルふれんず基金」設立により、ボルネオ島の現場での緊急性が高い活動への迅速な支援が可能になること、分野を超えた支援者の自主的なアクションが増え、活動の幅が広がることが期待される。

〒530-0015  
大阪府大阪市北区中崎西1丁目6-36-308 連合事務所着付  
E-mail : [contact-hutan@hutangroup.org](mailto:contact-hutan@hutangroup.org)  
HP : <https://hutangroup.org/>

